

令和4年3月発信

各位

「老い」や「死」とともにある「生」について考える、作家・鹿子裕文と漫画家・森田るり初の共作絵本

『はなのちるちる』を発行します



作／鹿子裕文

絵／森田るり

編集／筒井大介

装丁／椎名麻美

協力／Social Work / Art Conference (一般社団法人 HAPS)

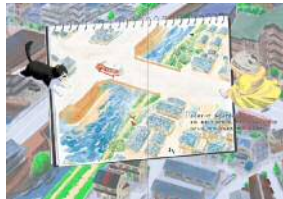
発行者／山岸孝啓

発行所／一般社団法人京都市老人福祉施設協議会

印刷・製本／丸山印刷株式会社

初版第1刷／2022年3月31日

定価／1,800円＋税



【内容紹介】

『きょうというひを だいじにおもうのは としをとったから かしら?』

これまでの時間を振り返って、はなのさんがちるちるに語り掛ける、今の思いとは。

鹿子裕文さんの言葉と森田るりさんの絵によって生まれた、一日一日を生きる私たちへのあたたかな眼差しの詰まった絵本、『はなのちるちる』を京都市老人福祉施設協議会が発行します。

超高齢社会を生きる私たちは、身近な誰かや自分自身の「老い」を避けることはできません。「老いていく中で、自分らしく生きること」について、こどもからおとなまで全ての方に、この絵本を通して考えて頂きたいとの思いから、京都市内の図書館や学校、児童館他施設へ絵本を寄贈させていただきます。また絵本の主たるメッセージに合わせて、「自分らしく生きること」の一つの実践として、施設のご利用者の皆さまにも、寄贈先への絵本の発送作業に携わって頂き、協議会全体でプロジェクトを進めて参ります。

こちらの絵本は協議会特設サイトと、直接取引店にて販売予定です。

【プロフィール】

鹿子裕文（かのこ ひろふみ）

1965年福岡県生まれ。編集者。早稲田大学社会学部卒業。ロック雑誌『オンステージ』、『宝島』で編集者として勤務した後、帰郷。タウン情報誌の編集部を経て、1998年からフリーの編集者として活動中。著書に『へろへろ 雑誌『ヨレヨレ』と「宅老所よりあい」の人々』（2015年12月ナナロク社／2019年3月ちくま文庫）、『ブードゥーラウンジ』（ナナロク社）、『はみだしルンルン』（東京新聞）、共著に『ほんのきもち』（扶桑社）がある。

森田るり（もりた るり）

漫画家。2013年に講談社『アフタヌーン』でデビュー。2017年に森田るい名義で『我らコンタクティ』（講談社）を上梓。同作品はマンガ大賞 2018において2位に入賞した。2021年、コミック DAYS にて『自転する彼（女）』連載開始。

筒井大介（つついだいすけ）

1978年大阪府生まれ。絵本編集者。野分編集室主宰。『ブラッキンダー』（スズキコージ）、『オオカミがとぶひ』（ミロコマチコ）がそれぞれ第14回、第18回日本絵本賞大賞を受賞。『オレときいろ』（ミロコマチコ）が2015年度のブラティスラヴァ世界絵本原画展において第2位にあたる「金のりんご賞」を受賞。水曜えほん塾、nowaki 絵本ワークショップを主宰し、作家の発掘、育成にも力を注いでいる。

【発行者・発行所概要】

京都市老人福祉施設協議会（市老協）は、社会福祉法人が運営する、京都市内すべての高齢者福祉施設が加盟している協議会（2022年3月末現在127施設）であり、高齢者やその家族が、尊厳ある生き方を実現するための福祉支援の向上を目指し、施設間を越えた啓発事業や職員研修の実施、情報交換などに取り組んでいる。

2019年度に策定した VISION2025「DREAM DESIGN」において、幼少期の倫理教育、道德教育の一翼を担うことが求められていることから、このたびの絵本制作プロジェクトの立ち上げと絵本製作に至った。

【絵本の購入とお取り扱いについて】

- ①特設サイトからご注文頂けます。QRコードはこちら→
- ②絵本のお取り扱いを検討頂ける書店様は、ぜひ下記までお問合せください。



<本件に関するお問い合わせ>

一般社団法人京都市老人福祉施設協議会 事務局（担当：堀池、内田）

TEL:075-354-8743 FAX:075-343-6270

E-mail: jimukyoku@kyoto-shiroukyo.jp

特設 WEB サイト: <https://sites.google.com/view/hananochiruchiru/>